

自立活動学習指導案

日 時 平成28年10月6日(木) 5校時
場 所 白糠町立庶路中学校 コスモス教室
対象生徒 2学年特別支援学級生徒
(知的2名、自閉症・情緒1名)
授 業 者

1 単元名

中学校卒業後の自分をイメージしよう

2 自立活動について

(1) 自立活動の意義

特別支援教育部会(以下、「部会」)では、今年度の研究テーマを「主体的に人とかわりあいながら、コミュニケーション活動ができる児童生徒の育成 ～小・中学校の連携の充実と児童生徒一人一人の自立と社会参加を目指した授業づくり～」と設定し、部会のメンバー一人一人の専門性の向上と日々の授業改善のための協議をすすめてきた。

特別支援教育においては、自立活動が指導・支援の要として位置付けられ、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じるための「個別の教育支援計画」と、それを受けての「個別の指導計画」を作成し、指導・支援を行っている。自立活動の指導は、特別支援教育特有の指導の形態であり、また、部会で掲げた研究テーマの探究につながるものであることから、自立活動の意義と指導の手順について再確認を行いながら自立活動の指導の充実のための議論を深めてきたところである。

自立活動の指導の目標は、「個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培うこと」(特別支援学校小学部・中学部学習指導要領)とされている。ここでの「自立」とは、幼児児童生徒がそれぞれの障がいの状態や発達段階に応じて、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとすることを意味している。また、「障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する」とは、児童生徒の実態に応じ、日常生活や学習活動等の諸活動において、その障がいによって生ずるつまずきや困難を軽減しようとしたり、また、障がいがあることを受容したり、つまずきや困難の解消のために努めたりすることである。さらに、「調和的発達の基盤を培う」とは、一人一人の児童生徒の発達の遅れや不均衡を改善したり、発達の進んでいる側面を更に伸ばすことによって遅れている側面の発達を促すようにするなど、全人的な発達を促進することを意図している。これらのことは、児童生徒一人一人の「自立と社会参加」のために不可欠な学びであり、この「自立と社会参加」は、現代社会に求められるノーマライゼーションの一層の発展とインクルーシブ教育の実現のための重要なキーワードといえる。

自立活動の指導の充実にあたっては、近年、ICFの理念やキャリア発達の視点も取り入れることも有効とされていることから、本単元ではこれらの視点も参考としながら指導計画を作成し、生徒一人一人の将来の「自立と社会参加」につながることを期待している。

(2) 自立活動の目標設定と「個別の教育支援計画」に基づく小・中学校の連携

自立活動の指導における目標設定は、生徒一人一人の実態把握と指導・支援の要となる「個別の教育支援計画」を出発点とし、目標を設定、ならびに自立活動の6区分を関連させながらの具体的な指導内容が設定されることになる。「個別の教育支援計画」は、小学校から引き継いでいるものであり、特別支援教育においてこの「個別の教育支援計画」は、小・中学校の連携として必然的に活用されるものであり、今後、小中一貫教育の要となる部分でもある。なお、この「個別の教育支援計画」については、部会において、各学校での作成や活用について情報共有をし、より一層の活用方法について模索しているところでもある。

※別紙『自立活動の指導内容の手順について』を参照

(3) 自立活動における生徒の実態と目標

※別紙『自立活動の指導計画』を参照

(4) 授業の形態と学習集団について

本授業の対象生徒は、自閉症・情緒障害特別支援学級の生徒1名と知的障害特別支援学級の生徒2名というように、2つの特別支援学級による交流及び共同学習である。本来であれば、障がい種に応じた適切できめ細やかな教育を保障するために障がい種ごとの学習集団での授業形態が基本となるが、生徒一人一人の社会性の広がりや対人関係の向上を目的として、学校生活の様々な場面において交流及び共同学習を設定している。

本授業の対象生徒3名は、小学校時代から共に学習する機会が多く、お互いに馴染みのある存在として意識し合っている。日々の学校生活においては、生徒Aと生徒Cの接点が多く見られがちで、生徒Bが孤立しているかのような場面も見られるが、いずれの生徒も対人関係についての未熟さがあり、社会性全般について学びの途中である。そのため、3名の生徒がお互いに切磋琢磨する中で望ましい関わり合い方や仲間意識が育つことを期待している。

なお、特別支援学級同志の交流及び共同学習だけではなく、芸術・体育系の教科については、同学年の交流学級での交流及び共同学習の機会もあり、通常学級の生徒との関わり合いの中で、より大きな集団における対人関係の向上やコミュニケーションスキルについて学んでいるところでもある。

3 単元について

(1) 単元の目的

知的障害や自閉症・情緒障害の特別支援学級に在籍している生徒の中には、中学校卒業後の自分の進路について具体的な想像ができなかったり、卒業後の将来の生活について理解が及ばないことがしばしばあり、対象となる生徒についても同様のことが言える。本単元は進路にかかわる

学習であり、自分の進路について考えられるということは、現在の学校生活について理解がなされていることは当然ではあるが、その中で、自分自身の得手不得手を理解しているという自己理解がなされていたり、中学校卒業後の進路選択の意味を理解していたり、さらにその先の将来の自分の姿をイメージできていたり、加えて、自分自身の意思についての自己選択・自己決定と、自分以外の人にその旨を的確に伝えられるというコミュニケーションの表出といった力が必要になってくる。

本単元においては、対象となる生徒個々の学習到達度、将来の希望、障がい特性に応じた手立てを講じることで、各々が自己理解を深め、自身の進路選択について知識を広げ、そして、現時点での進路に関する夢や希望を発信する力を養うことをねらいとし設定した。本単元が生徒一人一人の将来の自立と社会参加へとつながるような指導・支援となることを期待している。

なお、本単元の計画にあたっては、これまで取り組んできた既習事項（総合的な学習における高校調べや職業体験、国語科における発表活動、社会科における地域の調べ学習、自立活動における認知学習など）の学習成果を十分に反映させて行うこととする。

（２）単元の目標

中学校卒業後の生活について理解し、進路に関する自分の希望を整理して伝えることができる。

（３）評価について

自立活動の指導においては、教科等の学習の際に用いられる評価規準や評価基準に基づいた絶対評価をそのまま用いることは必ずしも適当ではないことがある。自立活動の内容については、学習指導要領において6区分26項目で示されているが、区分ごと、または項目ごとに別々に指導することを意図しているわけではなく、個々の幼児児童生徒が必要とする項目を相互に関連付けて具体的な指導内容を設定することとされている。そのため、自立活動の指導では、一人一人の生徒の実態に応じてねらいや目標が設定され、そして、個々の目標に照らしながら目標が達成されたかどうかについての個人内到達度評価を重視することとしている。なお、自立活動の指導についても、各教科等と同様に「個別の指導計画」を作成することになっている。

※別紙『自立活動の個別の指導計画』を参照

（４）本単元における白糠町教育研究所の「研究理論」とのかかわり

白糠町教育研究所（以下、「町研」）の研究理論の中では、「小中連携」、「見通し・振り返り」、ならびに「言語活動」といった視点をいながら研究主題に迫っているところである。これら町研の視点については、特別支援教育においても共通項であるといえ、本単元においてもこれらの視点を念頭に指導内容を検討したところである。

ア 「小中連携」

小学校と中学校との連携については、前述のとおり「個別の教育支援計画」を小中連携のツールとしながら、小学校から中学校へのスムーズな移行や、小学校と中学校との指導の一貫性を図っているところである。

部会の協議の中では、「個別の教育支援計画」を小中連携のツールとしながら、小学校と中学校の教員が児童生徒の成長や発達のプロセスを正しく理解したり、同じ視点で児童生徒のアセスメントができることが望ましく、それにより日々の指導の精度が高められたり、児童生徒本人や保護者の意向を尊重しながら一人一人の将来を見据えた一貫した指導・支援がなされるということを確認した。そのため、本単元においても、「個別の教育支援計画」を出発点としながら自立活動の個別の指導計画を作成し、単元構成を検討してきたところである。

イ 「見通し・振り返り」

学習課題に対する「見通し」や「振り返り」については、以前より知的障がい教育における重要な視点として位置づけられ、学習の導入場面では本時の学習課題や授業の展開自体について分かりやすく説明を行い、また、学習後には既習事項について詳細に振り返ったり、個々の学習課題に対する達成度を確認するといった場面に時間を費やしていることが多い。

また、自閉症がある児童生徒にとっても、この「見通し」や「振り返り」の視点は、自閉症の児童生徒の認知特性（記憶、ルーティン、視覚理解などの強み）をふまえると有効であるとされる。

知的障がいの児童生徒にとっても、自閉症の児童生徒にとっても、「見通し・振り返り」については、既習事項のより一層の定着のため有効な視点であり、特別支援教育の実際場面では、児童生徒の理解力を促進するための「手立て」として工夫されているところである。

ウ 「言語活動」

特別支援学級の児童生徒の多くが、まさに「言語活動」自体を学んでいる途中の場合が多く、通常学級の児童生徒の「言語活動」よりも、その範囲を広く捉える必要があると思われる。つまり、特別支援学級の中でも、知的障がいや自閉症がある児童生徒については、言語活動に関する学びの内容やプロセスに違いはあれど、いずれの児童生徒も言語活動の基礎基本を学んでいる最中である場合が多い。自立活動の指導内容の区分には「コミュニケーション」があったり、言語活動の下地となる「環境の把握」や「人間関係の形成」といった区分も示されていることから、本単元においても言語活動を重視しつつ、その範囲をより広く捉えているところである。

4 本単元における「言語活動」について

※本単元における「言語活動」については、自立活動の内容の区分（コミュニケーション、環境の把握、ならびに人間関係の形成）と関連させながら、次の観点で捉えることとする。

- (1) 指示理解、状況理解（内言語力、言語活動の基礎力としてのコミュニケーションにおける受信）
- (2) 意思の伝達、言語表出、文章表現（コミュニケーションにおける発信）
- (3) 言語を用いた話し合い活動、意思疎通（コミュニケーションにおける相互交渉）
- (4) 主体的、かつ柔軟な言語活動、発表活動（トータル・コミュニケーション）

5 本単元における「見通し・振り返り」について

※本単元における「見通し・振り返り」については、自立活動の指導区分と関連させながら、次の観点で捉えることとする。

- (1) 目の前の状況や本時の学習の流れを理解すること。
- (2) 本時の学習課題の解決の方法を理解すること。
- (3) 本時の学習課題を解決すること。
- (4) 既習事項を正確に想起すること。
- (5) 既習事項を応用して、本時の活動に活用すること。
- (6) 既習事項からさらに課題を見つけること。

6 単元の指導計画

回	月 日	題材名	学週内容
(1)	9/27	将来の希望や夢	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の興味関心や将来の夢や希望についての整理（ワークシート） ・興味関心、夢や希望の発表
(2)	9/30	今の自分に必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の得手不得手の整理（SSTによる自己理解） ・身に付けたい力の発表
(3)	10/ 3	進学したい高校	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のある高校について（パソコンを用いた調べ学習）
(4)	10/ 4	進学へ向けた予定	<ul style="list-style-type: none"> ・今後予定されている高校進学のための学校見学や教育相談の日程とその目的の確認（ワークシート）
(5)	10/ 6 【本時】	中学校卒業後のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校卒業後のイメージ作り（ワークシート） ・プレゼン資料の作成と概要発表
(6)	10/ 7	中学校卒業後の自分の姿①	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する作文づくり
(7)	10/11	中学校卒業後の自分の姿②	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関するプレゼンテーション

7 本時について

(1) 本時の個別目標と評価

本時の目標については、自立活動の「個別の指導計画」に基づき、かつ、町研の研究理論の視点（とくに、「見通し・振り返り」と「言語活動」）をふまえながら設定し、加えて、目標達成の手助けとなるような手立てを次の表に示している。これらの目標に対する評価については、自立活動の内容の区分（本時においては、「心理的な安定」「環境の把握」「人間関係の形成」、ならびに「コミュニケーション」）をふまえ、個々の目標についての個人内到達度評価を行う。

生徒	研究理論	個別目標	手立て
A	見通し 振り返り	(1)これまでの授業で得た情報を自分の資料の中からキーワードとして探してワークシートに記入することができる。 (2)現時点での進路に関する自分の希望をキーワードとして書き留めて、プレゼン資料を完成させることができる。	(1)必要な情報を探しやすいようにワークシート内にヒントを示しておく。 (2)ワークシートやプレゼン資料への記入がしやすいように書式を工夫する。
	言語活動	(3)教師からの発問を理解して積極的に応じたり、課題に対する困難さを感じる場面では落ち着いて助けを求められることができる。 (4)ワークシートとプレゼン資料をもとに、卒業後の進路希望の概要を発表することができる。	(3)発問に対する答えが単語のみの場合には、教師が文章のモデルを示す。 教師へ助けが求めやすいようヘルプカードを提示する。 (4)発表活動が容易になるようプレゼン資料を工夫する。
B	見通し 振り返り	(1)これまでの授業で得た情報を思い出しながら、自分の言葉で文章を作ってワークシートに記入することができる。 (2)現時点での進路に関する自分の希望を自分なりの言葉を用いて文章で整理することができる。	(1)必要に応じて情報を探しやすいように資料の場所や文章構成について説明する。 (2)ワークシートやプレゼン資料への記入がしやすいように書式を工夫する。
	言語活動	(3)教師からの発問を理解して積極的に答えたり、課題に対する困難さを感じる場面でははっきりとした口調で助けを求められることができる。 (4)ワークシートとプレゼン資料をもとに、卒業後の進路希望の概要を発表することができる。	(3)受け答えに自信がなかったり小声の場合には、表出内容を称賛しながら自信を持たせる。 (4)発表活動がしやすいように、プレゼン資料の書式を工夫する。
C	見通し 振り返り	(1)これまでの授業で得た情報を自分の資料の中からキーワードとして探してワークシートに記入することができる。 (2)現時点での進路に関する自分の希望を自分なりに文章を整えながらワークシートに記入することができる。	(1)必要に応じて情報を探しやすいように資料の場所や文章構成について説明する。 (2)ワークシートやプレゼン資料への記入がしやすいように書式を工夫する。
	言語活動	(3)教師からの発問を理解して積極的に応じたり、課題に対する困難さを感じる場面では正確な言葉を用いて助けを求められることができる。 (4)ワークシートとプレゼン資料をもとに、卒業後の進路希望の概要を発表することができる。	(3)受け答えの際、言葉の言いまわしに間違いがあれば、その都度、正しい言いまわしを示す。 (4)発表活動がしやすいように、プレゼン資料の書式を工夫する。

(2) 本時における『言語活動』

ア 教師の指示や目の前の状況を的確に理解して学習に取り組む。

(内言語力、言語活動の基礎力としてのコミュニケーションにおける受信)

イ 授業中において状況に応じて自分の気持ちや意思を伝える学習。

(コミュニケーションにおける発信)

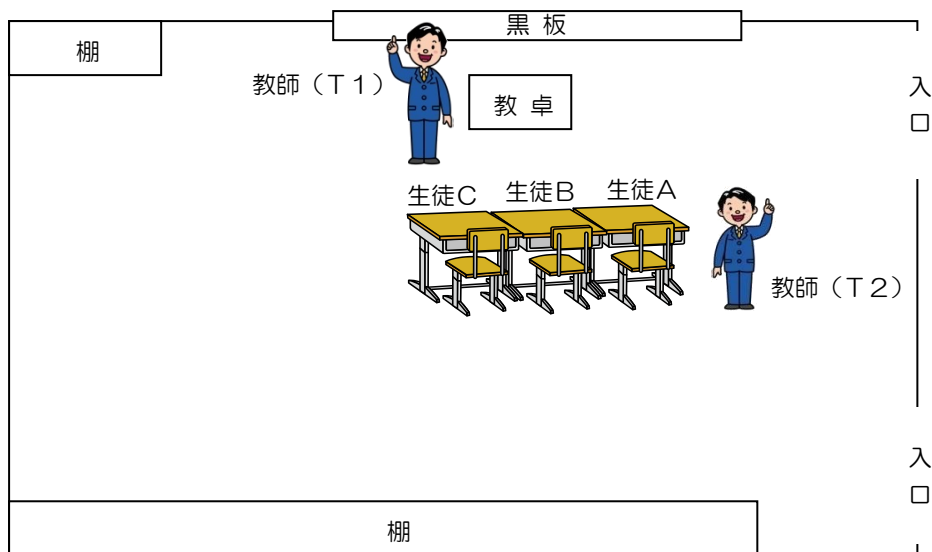
ウ 主体的かつ柔軟な発表活動

(トータル・コミュニケーション)

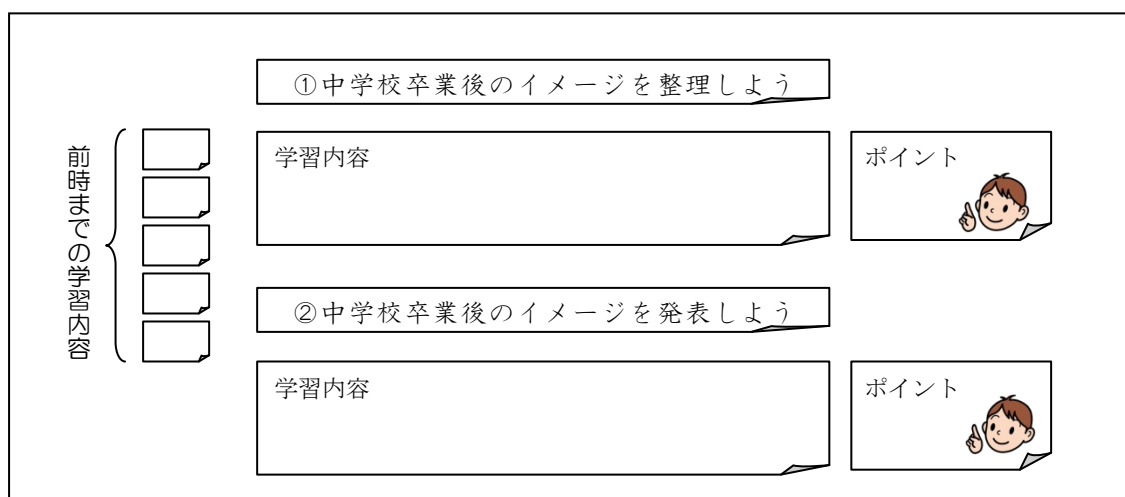
(3) 本時の展開

場面	学習活動	教師の働きかけ
導入	<p>(1) はじまりの挨拶を行う。</p> <p>(2) 本時の内容を確認する。</p> <p>【見通し・振り返り】状況理解、既習事項の想起</p> <p>(3) 前時までに取り組んだワークシートとプレゼン資料を振り返る。</p> <p>【言語活動】教師の発問への対応、意思の表出</p> <p>(4) 現時点での自分の進路希望の確認</p> <p>【言語活動】教師の発問への対応、意思の表出</p>	<p>(1) 挨拶生徒を指名する。【T1】</p> <p>(2) 本時の活動内容をカードで提示する。【T1】</p> <p>(3) 前時までの内容を、個々のワークシートの内容を紹介したり、内容について生徒問いかけたりしながら振り返る。【T1】</p> <p>(4) 進路先の希望について、簡単に質問する。【T1】</p>
展開	<p style="text-align: center;">学習課題（授業の目標）①：中学校卒業後のイメージを「整理」しよう。</p> <p>(1) これまで学習した進路に関する内容を思い出し、自分の手元の資料を振り返ったりしながら、ワークシートに必要な事項を記入する。</p> <p>活動中、課題に対する困難さを感じたり、自信がないところがあれば、近くにいる先生に助けを求める。</p> <p>活動中、教師からの質問があった場合には、その都度、分かりやすく返答する。</p> <p>【見通し・振り返り】状況理解、ワークシートへの記入</p> <p>【言語活動】教師の発問への対応、意思の表出</p> <p>(2) ワークシート中の指示に従いながら、随時、プレゼン資料も作成する。</p> <p>活動中、課題に対する困難さを感じたり、自信がないところがあれば、近くにいる先生に助けを求める。</p> <p>活動中、教師からの質問があった場合には、その都度、分かりやすく返答する。</p> <p>【見通し・振り返り】状況理解、ワークシートへの記入</p> <p>【言語活動】教師の発問への対応、意思の表出</p>	<p>(1) これまでの学習内容を、ワークシートに整理して記入することを説明する。【T1】</p> <p>活動中は生徒の理解度を観察し、生徒の主体性を見守りつつ必要に応じて問いかけや助言を行う。【T1&T2】</p> <p>生徒Aには、随時、声かけをして見通しを持たせる。【T2】</p> <p>(2) プレゼン資料への記入方法を説明する。【T1】</p> <p>生徒Aには、随時、声かけをして見通しを持たせたり、ワークシートとプレゼン資料の行き来を促す。【T2】</p> <p>活動中は生徒の理解度を観察し、生徒の主体的性を見守りつつ必要に応じて問いかけや助言を行う。【T1&T2】</p>
まとめ	<p style="text-align: center;">学習課題（授業の目標）②：中学校卒業後のイメージを「発表」しよう。</p> <p>(1) 一人ずつワークシートやプレゼン資料をもとに、中学校卒業後の進路希望について発表する。（発表者以外の生徒は、発表内容に注目する。）発表後、発表内容への教師の講評に注目する。</p> <p>【見通し・振り返り】状況理解、ワークシートの振り返り</p> <p>【言語活動】発表活動、教師の発問への対応、意思の表出</p> <p>(2) 次の学習内容について、教師の説明を聞いて確認する。</p> <p>おわりの挨拶を行う。</p>	<p>(1) 生徒一人一人の主体性を尊重しながら発表活動を見守る。また、発表後、発表内容について2～3つの質問を行う。また、発表生徒以外の生徒に発表内容について質問する。【T1&T2】</p> <p>(2) 次の学習の説明をカードで示しながら簡潔に行う。【T1】</p> <p>挨拶生徒を指名する。【T1】</p>

8 教室配置



9 板書計画イメージ ※本時までの取組状況により確定する。



10 ワークシートとプレゼン資料のイメージ ※本時までの取組状況により確定する。

- (1) ワークシートの内容は、本時までの学習内容をキーワードや観点でまとめた書式をイメージ
 (2) プレゼン資料は、次のような3つの観点（今の自分、高校生の自分、将来の自分）をイメージ

【今の自分】	【高校生の自分】	【将来の自分】
・得意なこと	・通いたい学校	・興味のある仕事
・苦手なこと	・高校生活の楽しみ	・働く目的
・今、がんばること	・高校でがんばること	・将来の夢